



ツバキ

59編は **ダビデの詩、「滅ぼさないでください」**に合わせてとあります。**ミクタム**とも記されています。ミクタムの意味は不明ですが、端書きに **サウルがダビデをで殺そうと、人を遣わして家を見張らせたとき(59:1)**とあり、危急存亡の瀬戸際にあつて救いを切望している状況を歌っていますから、重い響きを感じさせられる詩、曲想なのではないかと想像します。

家を見張らせたとあるのは **サウルはダビデの家に使者を遣わし、彼を見張らせ、翌朝には殺させようとした。ダビデの妻ミカルはダビデに言った。「今夜中に避難して自分の命を守らな**

ければ、明日は殺されます」(サム上19:11)という聖書の箇所が関係しているのでしょうか。サウルは娘ミカルがダビデを愛しているのを利用して、ダビデにミカルを妻として与え、手元に置き、すぐに刺客を送って殺そうとしました。それを知って、ミカルは父に背き、ダビデを逃がしました。ミカルの愛の行為ですが、ミカルとの結婚をダビデは「臣下の任務」として受け止めたのではないかと思われられます。

詩人は「敵、悪を行う者、流血の罪を犯す者、力ある者、欺く者」の殺戮からの助け、救いを求めています。詩人は「私は罪もなく、過ちもなく、悪事を働いたこともない」と無垢、清廉潔白を訴えています。権力者は、その力を奪われたくなくて、疑心暗鬼になり、妬みや不安から、目が曇らされるのでしょうか。他人はもとより、友人、親、兄弟、子どもまで信じられなくなるのでしょうか。

詩人は **あなたは主、万軍の神、イスラエルの神。目を覚まし、国々を罰してください。悪を行う者、欺く者を容赦しないでください(59:6)**と、命を狙う敵を神が罰し、裁きを下す事を祈り願っています。しかし、詩人はただ怯えているわけではありません。**しかし主よ、あなたは彼らを笑い、国々をすべて嘲笑っておられます(59:9)**と、悪を行う者の愚かさをも感じているのです。そして、詩人の最大の魂の叫びは次の箇所です。**神はわたしに慈しみ深く、先立って進まれます。わたしを陥れようとする者を／神はわたしに支配させてくださいます。彼らを殺してしまわないでください／御力が彼らを動揺させ屈服させることを／わたしの民が忘れることのないように。わたしたちの盾、主よ。(59:11)**

詩人は神への絶対的信頼に立っています。信仰者が敵を支配する。そして、敵は神の御力によって屈服させられる。それを知るために、敵を生かしてほしい。敵は自らの過ち、傲慢、呪い、欺きによって絶える。神の御力をイスラエルは忘れることのないように、と歌っています。愛と真実に生きる信仰者、すべての民の命を守る指導者としての詩人の謙遜で、気高い姿に心ふるえます。

『讚美歌21』は、詩人が祈り終えた時の平安と感謝を示すかのような箇所(59:17)を受けて、211「あさかせしずかにふきて」を関連させています。<https://www.youtube.com/watch?v=YKfCOi7e5G8> ジュネーブ詩編歌も非常に静かな、澄んだ感じで59編を賛美しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=fM29nw9Z8sc&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=59>